

駅前活性化の現状と対策 ～福島県郡山市を例に～

宇大国際国社 鈴木宏章

1. 駅前地域は地域の顔

駅前には、たくさんの商業施設やオフィスビルなどが集まっており、多くの人が行き交うことによって活性化される。その活気を持続できる駅前開発が望まれている。駅前というのは、その市町村の顔といっても過言ではないと私は考える。駅前の活性化をすることで市全体の活性化につながるのではないかと。福島県郡山市は私の地元である。たまに帰省するが、昔より駅前にいる人が少なくなっていて、活気がなくなっているような気がする。

国も全体的にいまだにあまり景気が良くない状況が続いているように思える。どこの地域にも言えるだろう。もちろん福島県郡山市にも言える。実際に、通行量調査結果などを見ても、減少傾向にあるようだ。東日本大震災の影響も少なからずあるだろう。このような中の活性化の現状はどうなっているか。また、どのような対策が必要であるか。

2. 郡山駅前の現状

少子・高齢化の急速な進展、大都市への一極集中、都市環境層の激化などの影響は、郡山駅前にも表れている。買い物客や居住人口の減少が進み、中心市街地の空洞化が進んでいる。中心市街地の再開発を図る計画があるが、その中心市街地において重要整備地区に挙げられているのが郡山駅前西口周辺である。また、2008年には駅前にあった大手の丸井郡山店のビルも閉店してしまった。これは、郡山市の中心市街地空洞化の象徴となっている。なお、郡山駅前アーケード商店街でも、大型店が撤退など、空店舗が増加してきている。このことにより、商業機能の低下が進んでいる。

これは、2011年に起きた東日本大震災の影響も大きい。実際に、東日本大震災により営業停止になってしまったお店などもある。この地震による影響は計り知れない。このような状況から、抜け出すためにも郡山市はいろいろな対策を打ち出している。実際に、旧丸井郡山店があったビルが、新たに商業ビルとして生まれ変わる見通しになっている。少しずつではあるが郡山駅前は、活性化の兆しが見えてきている。

3. 郡山市の取り組み

(1) 郡山市中心市街地活性化基本計画（改訂版）ⁱ

これは空洞化が進む中心市街地の活性化を図るため、市街地の整備・改善を図る事業を進めるとともに、大通りの整備やアーケードの建て替え事業を行うという計画で

ある。この計画の第一弾は、1998年8月に全国に先駆け策定された。改訂版では、現在の中心市街地の状況や社会情勢の変化に対応した計画とすべく、市民、商業者（事業者）、関係機関等に広く意見を聴きながら、本市の中心市街地の取り組むべき課題や進むべき方向性、事業効果の高い活性化事業、取り組み等について検討を行い、基本計画をまとめた。

(2)郡山市中心市街地活性化シンポジウム

郡山市では、『魅力ある「まちなか」とは』をテーマに、2011年2月14日に中心市街地活性化シンポジウムが開催された。市内外から約130名のものが来場し、今後の中心市街地のまちづくりについて考えを深めた。このシンポジウムで様々な意見が出た。

(3)郡山市中心市街地活性化推進委員会

市では、「郡山市中心市街地活性化基本計画」に基づき、各種事業を推進しているが、その進捗状況や今後の改善事項について、学識経験者や商工業者、住民代表そして関係行政機関の意見を伺うために、今までに3回開催されている。

4.駅前で実際に営業している人に聞いた話

2013年6月30日に郡山駅前で駐車場を経営している父親に話を聞きに行った。やはり、最近の駅前の人々の数は減っていて、活気がなくなっているとのこと。この衰退となったきっかけが、2008年2月に旧丸井郡山店の閉店だと述べていた。

(1)衰退の過程

旧丸井郡山店が閉店した2008年から現在の2013年の間は、駅前のお店の利用客が減った。そのことにより近郊のお店は衰退してしまった。これは、丸井の利用客や従業員がいなくなったのも原因である。郡山駅前の商店街の人々や住民は早めに旧丸井跡地の再利用を求めていたが、なかなか再利用が決まらなかったという。その間の2011年に東日本大震災が起き、駅前の人の減少に拍車をかけた。

(2)駅前のお店の経営について

父親が経営している駐車場は、郡山駅から徒歩から三分ぐらいで、なおかつ旧丸井郡山店の指定駐車場であった。そのため、大きな影響を受けたと述べていた。その結果、丸井が撤退してからは、駐車に来る車が大幅に減り、売上が今までの3分の1ほど減ったそうだ。このような被害を受けたのは、この駐車場だけではなく、近郊の飲食店などでも結構な被害を受けたようである。そもそも丸井の従業員は200人ほどいて、ランチの時間には、昼食を食べに近場のレストランに行っていたそうだ。だが、丸井が撤退してしまったため、それらの従業員と利用客がいなくなったため、その分売上に大きな影響があったとのことだ。特に、丸井が撤退してからは土日の休日の人の数が減ったとのことである。

(3)丸井跡地の再利用のきっかけⁱⁱ

今年の三月に旧丸井ビルの解体が決定した。この改定が決定した理由として、東日本大震災があったため、丸井ビルはその影響で大規模半壊の判定を受け、国や県から補助金が出ることになった。そのため、お金をかけずに取り壊しが可能になったため、解体に至った。それに加えて、旧丸井跡地の再利用も決まり、いずれは商業ビルが建設されると明らかになった。このことに、駅前周辺の人々は歓喜したとのことである。

(4)郡山市のこれからについて

父親は「丸井跡地の地権者だけでは、跡地の再利用は難しい。市の行政と商工会議所などの民間との協力が必要。また、2013年に郡山市の市長が代わった。新しい市長は昔、政府の郵政省などで働いており、中央政府とのパイプがあるため、地元の人たちは再開発に期待している」と述べていた。

5.地域のことを考えた上での活性化

(1)駅前の活性化に必要なことⁱⁱⁱ

郡山市において、郡山駅前というのは多くの人が行きかうところである。駅周辺が活性化することで、さらなる発展・拡大が期待できると考える。駅前では、活気を維持することが必要である。だが、資本を投下して活性化させたとしても、それが一時的なものでは意味がない。駅前は人々の生活や経済に大きな影響を与える。そのため、駅前の活性化には、長期的な面で考えることや、世の中の流行を取り入れたタイムリーな運営が求められると考える。

そのためにも、人と地域のニーズを的確に把握することが重要になってくる。そのことに関して、今旧丸井跡地に建設される商業ビルにどのような店舗が入るかということが非常に重要になってくる。郡山駅にはどのようなお客さんが訪れやすいかという視点も必要だ。電車通で郡山の学校に通っている高校生も多いので、高校生などの若者が立ち寄りやすい店を入れていくというのも一つの案である。

若者だけではなく老若男女を視野に入れることも大事である。また、駅前は、周辺交通の重要な拠点となるため、老朽化対策なども必要になってくる。最近では、老朽化したビルの外壁タイルが落下する事故があるが、それを防止するためにもメンテナンスフリーという工法が取られたりもしている。点検は欠かせないということだ。そして、駐車場のスペースの確保なども当然必要となってくる。駅前の活性化には、町の風景を壊さないことも大切であると考え。そのためにも、環境保護や周りの環境にあった建物を建設することも必要になってくる。

これらの、ニーズや注意点を考慮してうえで、新たな対策を考えていくことが必要である。市全体を活性化するためにも、まずは駅周辺から活性化していくことが欠かせないだろう。幅広い視点から駅前を活性化していくことが必要であると感じた。

(2)音楽を生かした活性化

福島県では、音楽の分野での活動が非常に有名である。また、郡山市は2008年に音

楽都市宣言というものを行っている。このように、最近では音楽活動をアピールし始めている。また、2010年には、郡山市に「がくとくん」という新しいイメージキャラクターも誕生している。

そのような中、郡山では郡山商工会議所の中心市街地活性化の取り組みとして、2005年から音楽をテーマにした町づくりとして音楽祭が開催されている。この音楽祭は「まちなか音ステージ^{iv}」という名前で今もなお続いている。昨年のまちなかオンステージでは、予選を勝ち抜いたアマチュアアーティストの方々が実力を競うまちなかミュージックコンテストが開催された。また、駅周辺の4つのステージで演奏会も開かれた。ほかにも、様々なイベントが行われた。

別の取り組みとして、2006年から「世界ベンチ・イス創作コンテスト^v」が開催されている。これは、音楽をテーマにベンチ・イスのデザインを募集し、中心部から音楽都市郡山のイメージを発信するというものである。これまでに投稿された作品は、郡山中心市街地の歩道や郡山市内公共施設の中に設置されており、休憩場や待ち合わせ場所として多くの人々に親しまれている。これらのベンチ・イスが駅周辺の歩道に設置されているのを見たことがあるが、おしゃれで雰囲気もあっており、何より音楽都市ということアピールできている。

福島県出身の有名なアーティストや芸能人は多数いる。有名どころで、ミュージシャンでは、サンボマスターの山口隆、BOØWYの高橋まこと、つのだ☆ひろなどである。また、福島県出身のミュージシャンで結成された猪苗代湖ズ^{vi}は、東日本大震災後に福島を舞台にした「I love you & I need you ふくしま」を歌い、紅白に出たことで有名である。俳優では、西田敏行、伊東美咲、佐藤B作などがいる。

郡山市のどこかでフェスタなどを開き、これらのミュージシャンや俳優を呼んで、演奏やトークショー、イベントなどをしてもらえば、県外からも多くの人々が来るのが予想される。その結果、電車で来る場合は郡山駅に来るわけなので、食費、宿泊代、お土産代などの経済効果が期待できる。これは、郡山駅周辺の活性化につながるだろう。また、これらのきっかけで郡山を訪れてくれた方々が、郡山を気に入りリピーターになれば長期的な利益も期待できる。

今までも行われている、イベントをこれからも続けていき、なお新しい案も考えて実施していき、今以上に音楽という特徴を生かして行くべきだと考える。そして、もっと郡山市を活気づけていき、もっと栄えている街にしていくべきだ。

6.地域活性化の今後と課題

郡山駅前の現状、郡山市の対策などを色々と調べたが、思っていた以上に郡山市は、地域活性化のため、郡山駅周辺の衰退を改善するためにさまざまな対策を行ってきていることがわかった。行政が、これらの対策にしっかりと取り組んでいるため、市民もちゃんとついてくるのではないかと考える。旧丸井跡地にも新たな商業ビルが建設される見通しがたったため、これからの発展が大いに期待できる。

また、郡山市はこれらのまちづくりに関する情報を市の HP に事細かにあげている。そのため、住民にとって非常にわかりやすい。このようにすることで、住民は市が行う対策の詳細や方向性を理解することができる。結果的に市民たちの協力や理解を得やすいので、対策などがやりやすい状況を作り出すことができている。父親も言っていたが、市を活性化するためには行政と民間企業・団体、市民が連携して協力していくことがいかに大事かということを改めて認識しなおした。市民たちが行政に頼りすぎていてもいけないし、行政が市民たちの意見を無視した対策をとっていてもいけない。行政と民間がお互いに納得できるような対策を行っていくことが、行政と民間、そして市に対して最善であろう。市民のニーズや、世の中の流行りなどを活性化に必要なことを考慮した上で対策を考えればより良い案になるであろう。

駅前活性化における今後の課題としては、県境を超えた購買力の流出である。例えば、郡山市から仙台市へと購買力が流れてしまうことである。交通手段が充実したことからこのような問題が生じた。この課題を解決するためにも、ただ商業機能を向上させるだけではなく、文化的、娯楽的な魅力を向上させるなどの総合的な計画を考えることも必要である。ほかには、2006年に改正されたまちづくり3法の実効性に疑問が生じていることだ。中心地市街地における活性化は短期的ではなく長期的な取り組みであるため、対策に取り組むとともに残された課題を解消していくことも望まれる。

i 福島県郡山市ウェブサイト [市民の方へ-郡山市中心市街地活性化基本計画](2013 6.21 閲覧) www.city.koriyama.fukushima.jp/

ii 福島民報 2013 5.14 火曜日 日刊 「旧丸井跡地に商業ビル 管理者建設事業者に賃貸方針」

iii 東急不動産 HP 「駅前活性化 01 時代の流れを敏感に映し出す『駅前』: 東急不動産」 (2013 7.3 閲覧) <http://www.tokyu-land.co.jp/project/station/>

iv まちなか音ステージ 2012 - 郡山商工会議所(2013 7.6 閲覧)

www.ko-cci.or.jp/machinaka

v 世界ベンチ・イス創作コンテスト - 郡山商工会議所(2013 7.6 閲覧)

www.ko-cci.or.jp/bench/

vi 猪苗代湖ズ 「I love you & I need you ふくしま」 (2013 7.6 閲覧) www.inawashirokos.jp/